

平成 19 年度に実施した認証評価に関する検証結果報告書の概要 (法科大学院)

認証評価の有効性や適切性について検証し、評価内容・方法等の改善に役立てることを目的に、平成 19 年度に実施した認証評価について、対象法科大学院及び評価担当者へのアンケートを実施。

【アンケート回収状況】

◇法科大学院認証評価（本評価 9 校・予備評価 3 校）

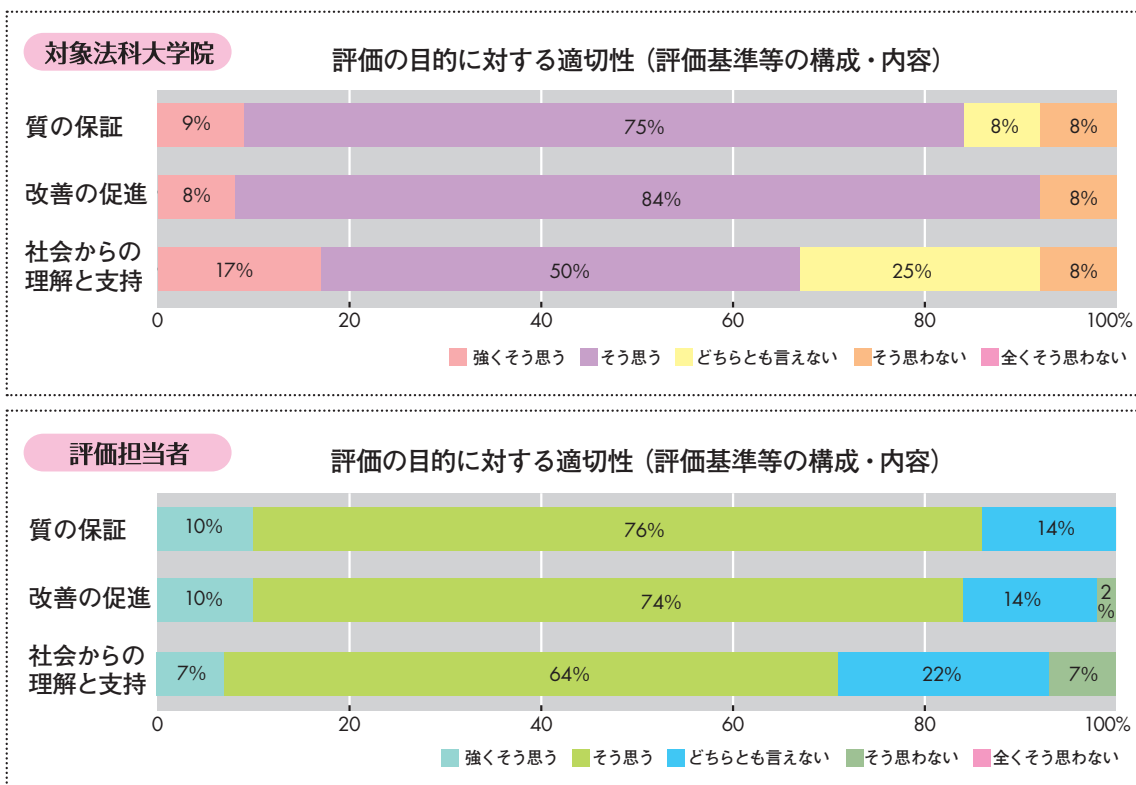
対象法科大学院 12 校すべてから回答

評価担当者（部会構成員）62 名中 42 名から回答（回収率 68%）

1. 検証結果の概要

■ 機構が定めた評価基準等について

評価基準等の構成・内容は、「質の保証」「改善の推進」「社会からの理解と支持」という評価の 3 つの目的に照らし概ね適切であり、教育活動を中心に設定していることも適切。ただし、「社会からの理解と支持」については、どちらとも言えないとする回答も一定数あり、今後の検討の中で考慮が必要。

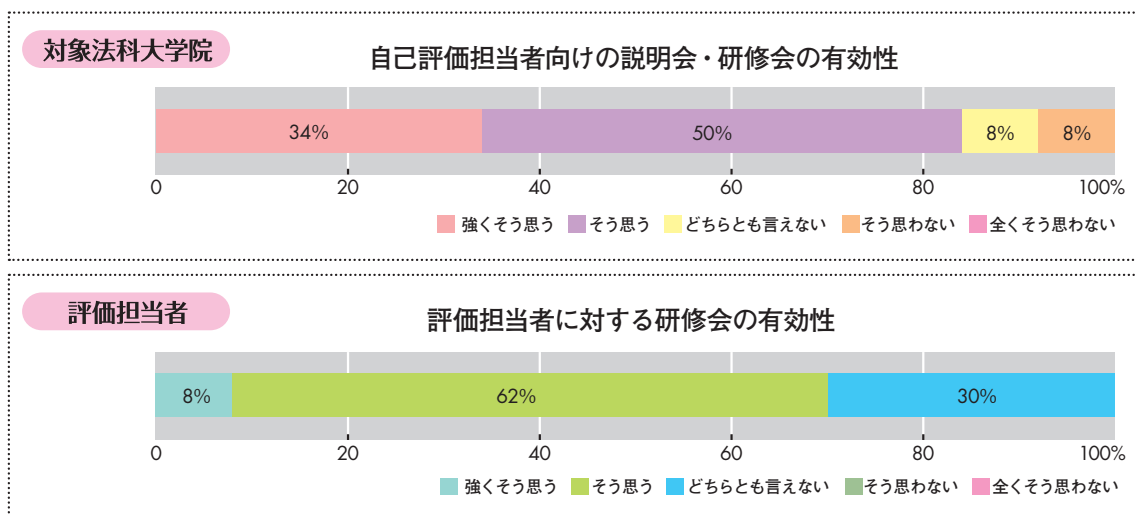


一方で対象法科大学院が自己評価しにくい、評価担当者が評価しにくい基準または解釈指針があるとの指摘もあり、引き続きわかりやすい表現の工夫や、説明会等を通じた評価基準等の趣旨・ねらいについての説明を一層充実させていくことが望まれる。

説明会・研修会について

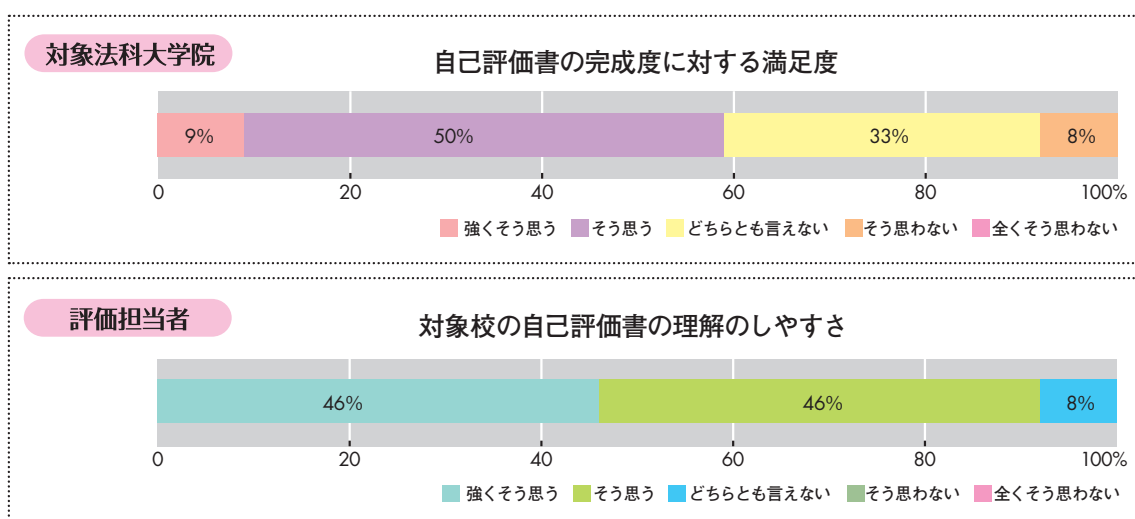
対象法科大学院に対する自己評価担当者向けの説明会・研修会及び評価担当者に対する研修会については、いずれも有効性が確認。

ただし、対象法科大学院からは研修内容における具体的な事例等の充実を求める意見が多く出されていることや、評価担当者からは評価経験の差を考慮した研修方法の工夫を指摘する意見もあることから、引き続きこれらの面での充実を図っていくことが望まれる。



自己評価書について

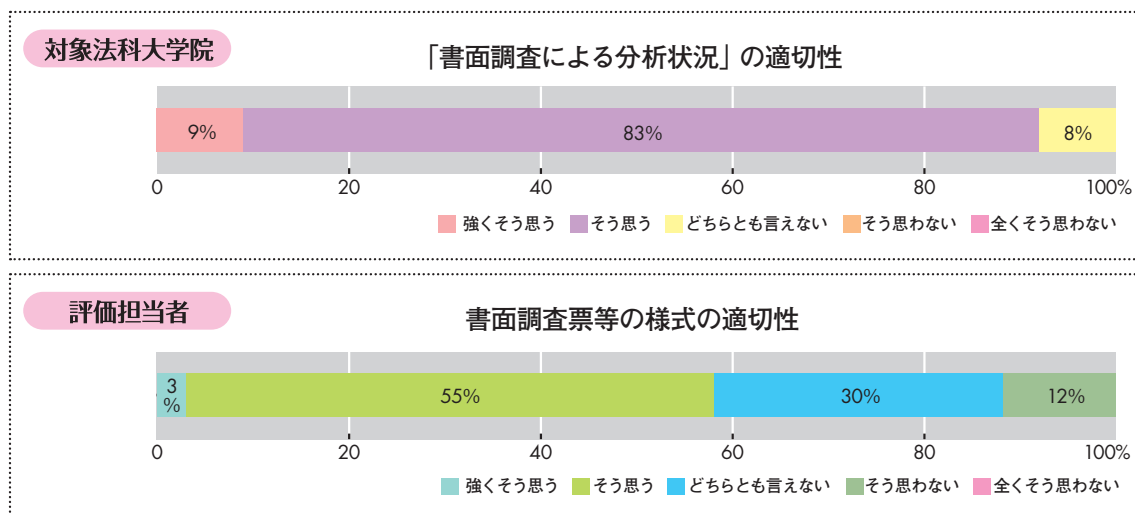
対象法科大学院は自ら作成した自己評価書の完成度に概ね満足している。しかしながら、評価担当者からは、書面調査に当たって、対象法科大学院の基準、解釈指針の理解が十分でなかった点や記述のわかりやすさについてバラツキがあるなどの指摘もあり、引き続き説明会・研修会等で自己評価書作成に当たっての留意点の説明内容を充実させるなどの配慮が望まれる。



自己評価書の添付資料については、概ね適切。ただし、対象法科大学院からどのようなものを用意すべきか迷ったとする回答が一定数あることや、評価担当者からは必要な根拠資料の不備・不足等を指摘する意見もあり、引き続き、説明会、研修会などを通じて、根拠資料・データの例示の充実、引用したデータの根拠資料の所在明示方法などについての説明内容の充実が望まれる。

■ 書面調査・訪問調査について

書面調査については、適切であると回答。

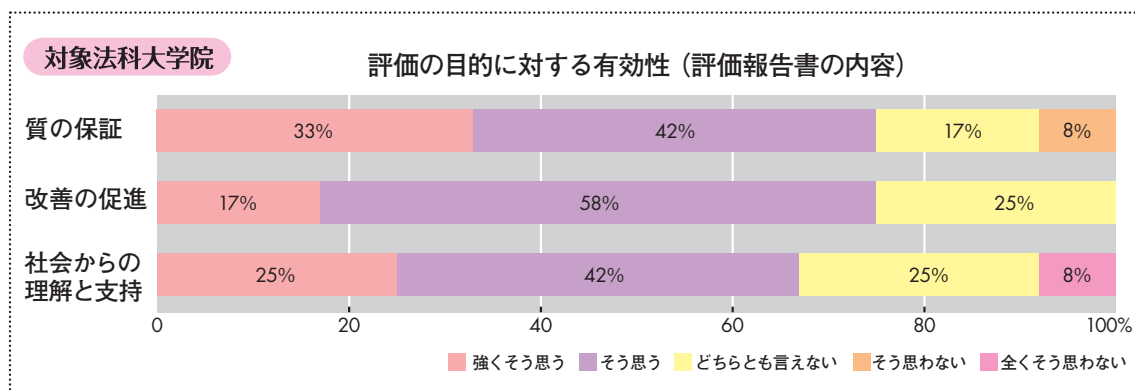


訪問調査についても、適切であると回答。ただし、訪問調査日程、修了生面談の人選及び方法の工夫について指摘する意見もあり、引き続き、より効果的な実施に向けての配慮が望まれる。

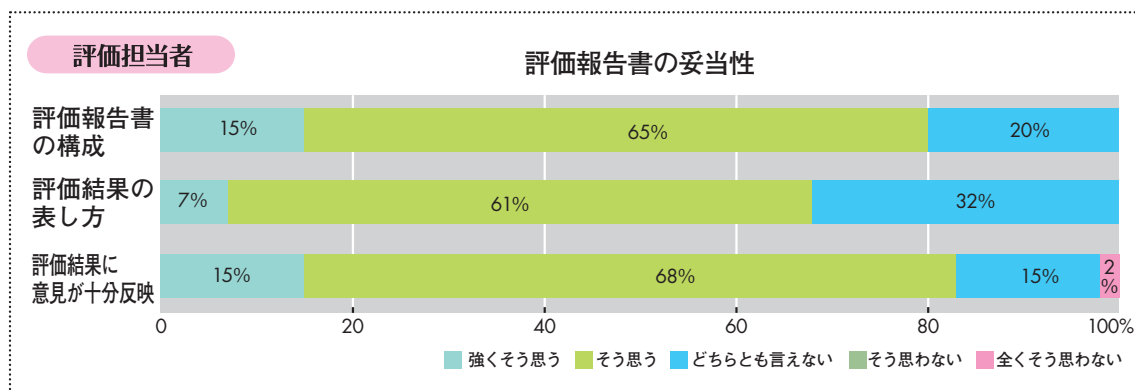
■ 評価報告書について

評価報告書の内容は、対象法科大学院において、「質の保証」「改善の推進」「社会からの理解と支持」という評価の3つの目的に照らし概ね適切であり、その実態等に照らしても適切であると回答。

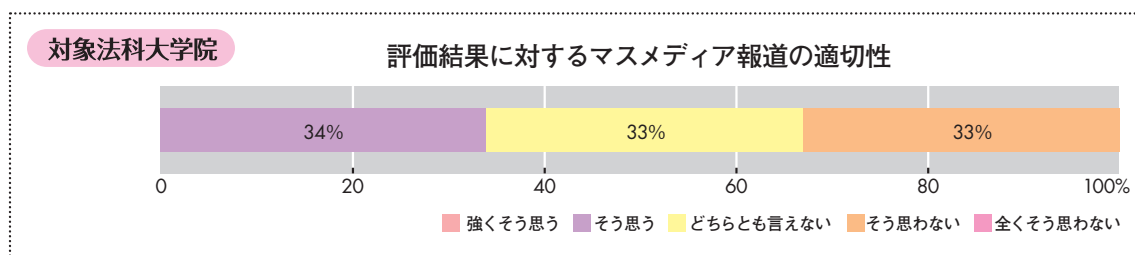
ただし、新たな視点を得られたか、対象法科大学院の規模等を考慮したものであるかに對しては、どちらとも言えないとする回答も一定数あり、引き続き検討が必要。



評価担当者は、評価報告書の構成、評価結果の表し方や自らの意見の評価報告書への反映について妥当であると回答。

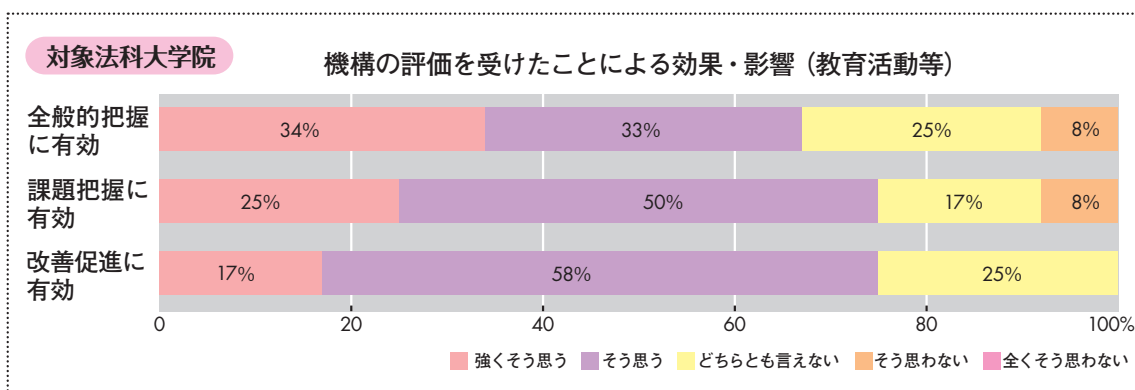


なお、評価結果を受けてのマスメディア等の報道の適切性は、対象法科大学院の回答において否定的又はどちらとも言えないとする回答が多い。平成19年度から評価結果が初めて公表されたこともあり、その適切か否かの判断は明確ではないが、引き続き評価報告書の内容が理解され、支持が得られるような工夫について検討していくことが望まれる。

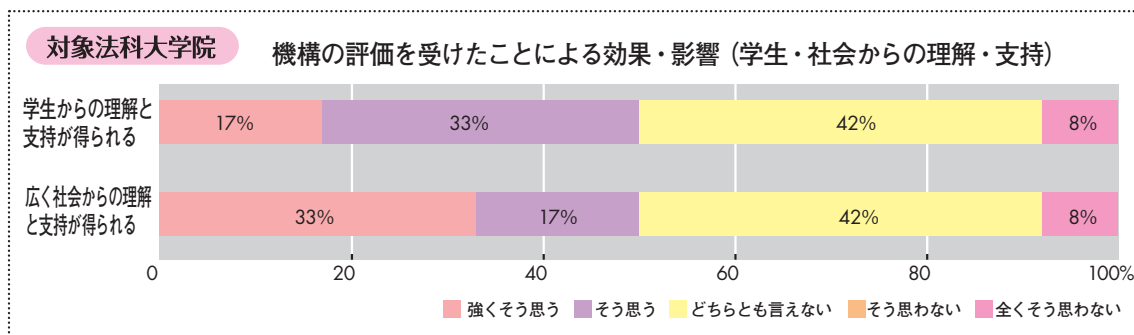


評価を受けたことによる効果・影響について

自己評価の実施や機構の評価を受けたことにより、教育活動等の状況や課題の把握に役立つとともに、教育活動等の改善の促進につながるものとしてその効果・影響を評価。



ただし、学生または広く社会からの理解・支持が得られたかどうかについては必ずしも十分な効果・影響があるとはしておらず、引き続き認証評価制度や機構の行う評価への社会の認知度を高めていくことが必要。

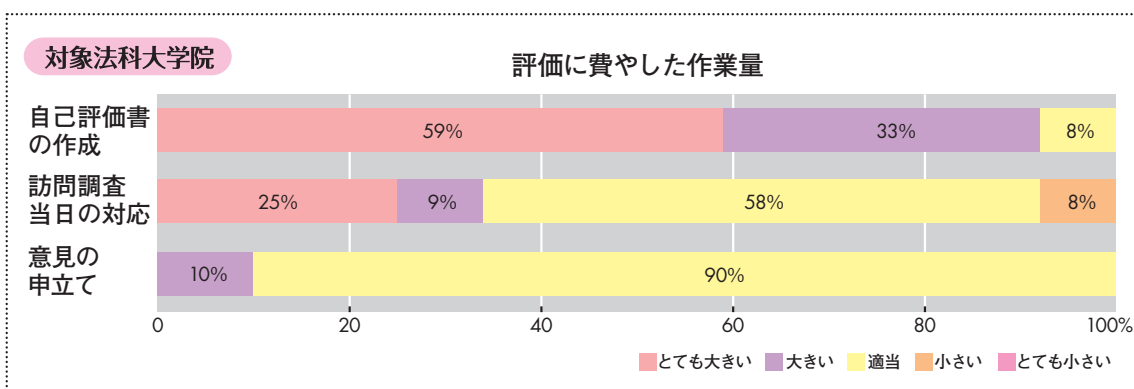


また、教育活動等を組織的に行うことの重要性の教職員への浸透については概ね効果・影響があるとしているものの、各教員の教育活動等への取組の意識向上への効果・影響については、どちらとも言えないとする回答も一定数あり、各対象法科大学院での今後の取組に期待。

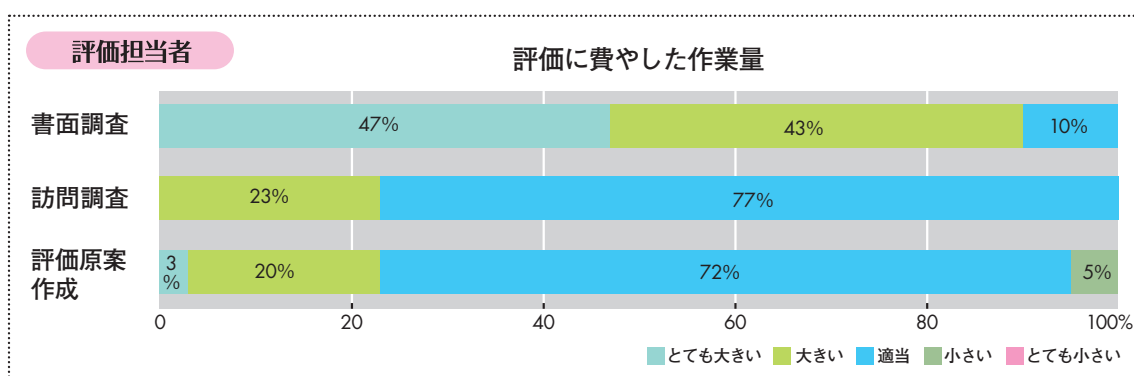
自己評価の実施及び機構の評価結果を踏まえた改善・向上への取組も各対象法科大学院で着実に行われており、今後の効果・影響に期待。（具体の改善事例は別紙1のとおり）

■ 評価の作業量等について

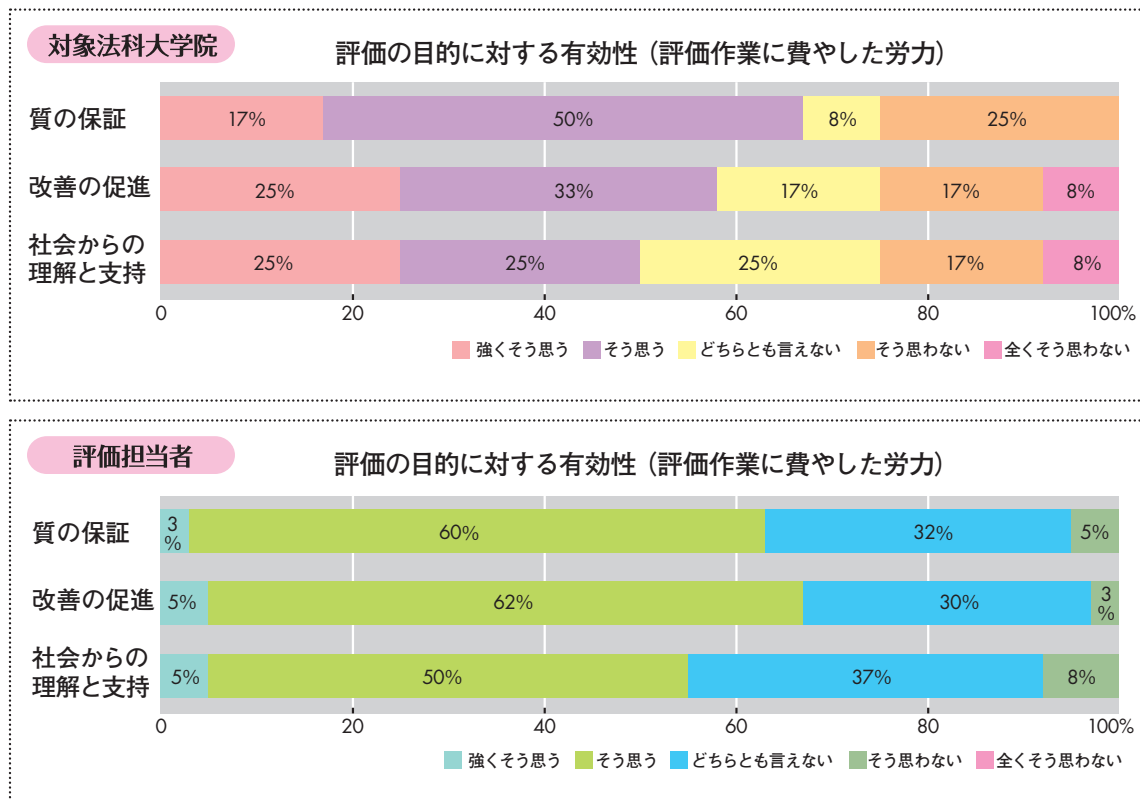
対象法科大学院は、自己評価書の作成に係る作業量が大いと感じており、引き続き作業量軽減のための工夫が望まれる。



評価担当者も、自己評価書の書面調査の作業量が大いと感じており、引き続き作業量軽減のための工夫が望まれる。



評価作業の負担は大きいとしているが、その作業に費やした労力は、評価の目的（「質の保証」「改善の推進」「社会からの理解と支持」）に概ね見合うものであると回答。ただし、対象法科大学院における「社会からの理解と支持」については、否定的又はどちらとも言えないとする回答も一定数あり、今後の検討の中で考慮が必要。



2 全体的な評価・課題等

全体として、機構の認証評価の目的等に照らして成果があがっていることが確認。

一方で、対象法科大学院・評価担当者ともに評価を通じた改善への取組への意識向上や評価の目的に対する妥当性の認識が浸透しつつあることが窺えるものの、引き続き、より効果的・効率的な作業が行えるよう工夫をしていくことが望まれる。

また、認証評価制度等に対する認知度をより高め、社会からの理解・支持を得るためにも、評価プロセスにおける改善だけでなく、評価結果の公表方法などを総合的に検討していくことが望まれる。

なお 20 年度以降、機構として既に改善等を図っている事項の例は別紙 2 のとおり。

認証評価結果を受けた対象校の改善取組の例 (代表的なものを抽出)

- 科目区分整理の指摘があった授業科目について、一部を整理・廃止した。
- 法律基本科目の中の受講者数が多かった授業について、同時に受講する学生数が80名を超えないようにクラスを分割した。
- 集中講義において、授業終了後の試験期間を工夫するなど、授業の履修に際して授業時間外の事前事後の学習に必要な時間の確保について配慮するよう検討した。
- 正課外の成績を成績評価における考慮要素としているものについて、ガイドラインを定めた。
- 平常点の採点方法について、予定された配点割合を超えないことを教員間の共通の認識とした。
- すべての授業科目について、成績評価における考慮要素を学生便覧やシラバス等で周知するように改善した。
- 厳正で客観的な成績評価を行うべく「成績評価のあり方等に関する申し合わせ」を策定し、同内容の遵守について周知を図ってきたが、今回、問題となった教員のみならず、全教員にあらためて周知徹底を図った。
- 法科大学院間の教育連携による単位互換科目の単位認定について、教育課程の一体性を損なわないよう、本法科大学院独自の科目区分ではなく、科目区分の通常の趣旨に照らした区分において単位を認定するよう検討を進めている。
- 次年度以降の入試について、併願者の選抜において法律科目試験の結果を参考にしない新たな入試制度を定め、早急にホームページ等で公表する予定。
- 担当科目に関連する業績を厳格に審査し、疑わしい場合や業績が不足する教員の採用を行わないこと、現に専任教員である者に対しては業績を怠ることのないよう指示するとともに、十分な業績がない者に対しては研究計画を出させて適切な指導を行うとともに、研究に専念できる環境を用意することとした。
- 一部の専任教員並びに一部の兼任教員及び兼任教員の専門分野について、教育上の経歴や経験、理論と実務を架橋する法学専門教育を行うために必要な高度の教育上の指導能力を有していることを示す資料を学内外にホームページで開示することとした。
- 自習室を移動し、教室等と同じ棟に配置した。

認証評価の改善・充実のための機構の取組例

研修・説明会関係

〔評価担当者に対する研修会〕

- これまで、新規・継続の評価担当者の区別なく実施していたものを、評価担当者からの要望を踏まえ、全体研修を実施した後、新規委員を対象とした研修を実施することとした。

〔説明会・自己評価担当者等に対する研修会〕

- 認証評価説明会及び自己評価担当者等に対する研修会（平成20年度実施分）の説明内容として、これまで評価基準を中心とした内容としていたが、対象校からの要望等を踏まえ、予備評価において改善を要する点として指摘した事項等の具体的な事例に重点を置いた説明内容とすることとした。

書面調査・訪問調査関係

- 評価担当者からの要望を踏まえ、授業見学対象数を増やすため、訪問調査担当委員を分散させ、同一時間帯に実施されている授業科目を2以上並行して見学することとした。